

77 多頭飼養農家における和牛繁殖経営の経済性

福島県農業試験場経営部・平成12年度農業試験場試験成績概要

- 1 部門名 畜産－肉用牛－畜産経営 分類コード 07－01－49000000
2 担当者 新田耕作
3 要 旨

(1) 調査農家の繁殖雌牛飼養頭数は、舎飼農家(A)が21頭、一部放牧農家(B)が20頭、時間制限放牧農家に(C)が26頭、終日放牧農家(D)が40頭である。

(2) 繁殖雌牛1頭当り年間飼養管理時間は、舎飼農家124時間に比較し、一部放牧及び時間制限放牧農家では101時間、107時間とやや少なかったが、労働時間の大幅な削減は認められなかった。一方、終日放牧農家では、年32時間と極めて省力的であった。

(3) 繁殖雌牛1頭当り経営費は、最大が舎飼農家の287千円、最少が終日放牧農家の177千円であり、そのうち購入飼料費が全体の4割から5割を占めた。また、飼養形態別の購入粗飼料費は舎飼農家が58千円であったが、全面開放を行っている2戸の農家では平均21千円と6割少なかった。

(4) 繁殖雌牛1頭当りの所得は、子牛販売価格及び子牛生産率の高い農家2戸(舎飼及び一部放牧農家)で168千円、169千円と高かった。

一方、終日放牧農家は規模拡大により育成牛が6.7頭と多く、かつ販売価格が低いことから所得は58千円と低い。省力的な飼養管理により1日当り家族労働報酬は14千円と高く労働生産性が優れていた。しかしながら、この農家における出荷牛の成績は、日齢体重が去勢0.81kg、雄082kgと最も小さく、販売価格、生体価格とも低かった。

以上、終日放牧は省力効果が大きく低コストであることが示されたが、調査事例では子牛販売価格の低いことが問題となっていた。終日放牧経営における収益性を向上させるためには、子牛の資質向上及び終日放牧牛の子牛育成技術の確立が求められる。